



女性職員活躍事例 第2回

広島管内で活躍されている女性職員の皆さんにお話を伺いましたので御紹介します。

今回は・ **岡山少年院 専門官** です。



専門官の経歴

採用 岡山少年鑑別所庶務課

その後の勤務歴

岡山少年鑑別所 専門官

岡山少年鑑別所 庶務係長

岡山少年院 庶務係長

岡山少年院 専門官

現職

Q1 現在の業務内容について教えてください。

少年院の庶務課で庶務係をしています。文書の受付・発送、保存文書の管理、電話や外来者の窓口での受付が主な業務です。25年程前に少年鑑別所の庶務係として採用されて、ほぼ庶務課で勤務してきており、文書関係の業務と会計関係の業務の経験が半々です。いわゆる現場での経験、少年鑑別所の鑑別部門観護係としての勤務は約半年に過ぎません。こちらは、第2子の妊娠・出産で中断しました。その後、2度目の職場復帰後は、子育てをしっかりとやっていきたかったので、総務系の業務を希望して、今に至っています。法務教官としては、最もマイナーな路線を歩んできたと言えます。

Q2 どのような職業をされていたか。現在の仕事をする上で役に立っている経験等があれば教えてください。

大学卒業後は、1年間大学に残っていましたが、職業としては法務教官が初めてです。アルバイト等の経験では、家族療法のカウンセリングルームで受付業務をしてきたことが、現在の受付業務にも活かされていると思いますし、変わったところでは、ホテルのディナーショー等で接客をしていた経験があり、外部からのお客様にお茶をお出しするのも苦になりません。

Q3 この仕事に就ききっかけについて教えてください。

法務教官と初めて聞くと、特殊な仕事のように感じられるかもしれませんが、私の場合は、大学在籍中の早い段階から法務教官の就職説明会が何度か開催され、参加していました。同じゼミの先輩を含む何人かの先輩が、女子少年院等で勤務していたので、公務員の普通の仕事のひとつと感じていました。社会福祉学科に所属していたので、人に関わる仕事がしたいと思っていましたが、児童相談所、児童自立支援施設(当時は教護院と呼ばれていました)で実習を受けたり、乳児院でアルバイトを経験する中で、対象を青少年くらいまでに絞り込んでいきました。公務員や外郭団体の試験をいくつか受けた中で、合格・内定をいただいたのが、法務教官採用試験でした。

Q4 これまでこの仕事を続ける中で、特にうれしかったことや達成感を感じたことはありましたか。

事務仕事をしたいからと思って、法務教官を志す人はいないのではないかと思います。私が担当してきた業務は一見すると総務系の仕事ですが、特に少年鑑別所においては、一人の少年が入所から退所するまでの様々な場面に関わってきました。入所時の領置・オリエンテーションや寮内での生活の指導、女子少年の入浴立会・外診、審判等。その中で、多くの少年たちは、表情が変わっていきます。その瞬間に立ち会えるのは、とてもうれしいことでした。

Q5 反対に、困難なことや問題はありましたか。また、それをどのように乗り越えてきましたか。

仕事や育児が新しい環境になった時に、それらの両立が上手いかず、くじけそうになったことはあります。我々の仕事のルールとして、身柄を持っている人を優先するというものがあります。私が勝手にですが、家の中にもそのルールを持ち込んでいるところがありました。夫は同じ職種で、現場で仕事をしている人なので、育児・家事の管理は私の方でやっていくという考えでした。少年鑑別所では時間外の入所が多くあり、私に対応しないといけない場合には、夫に残業せずに帰ってもらうということはもちろんありましたが、私の方でうまく回っていないところのフォローはしてもらっていました。

上手く乗り越えられたかどうかは分かりませんが、問題が生じたときに1つ1つ対応していけば、何かしら道が開けていくという実感はあります。2人の子どもの出産から保育園時代にも、例えば、育児休業の取得年数の変更や看護休暇に時間休ができるなど、制度の改善がありました。今の時代は、高校生頃までは、様々な場面で子どもの送迎が求められますが、小学生時代には習い事をしたいと子どもが言った時に、送迎のために特定の曜日に夕方1時間の年次休暇を取得することを認めていただいたり、子どもを帰宅させずに放課後子ども教室から直接、習い事の教室に送り出していただけるようお願いもしました。

Q6 仕事をする上で、心掛けていることはありますか。

子どもを保育園・小学校に送り出す際に、今日は呼出があるかもと思う日もありますが、予定外にということが多かった印象があります。何か対応が必要になった時に、夫や義父母に頼めるのか自分が仕事を休むことになるのか段取りを付けておくことを心がけていました。そして、自分の仕事の優先順位を常に考え、仕事の順番を入れ替え、急に仕事に穴をあけることになった時に仕事の進捗状況が分かるようにしておくことを心がけていました。仕事の効率化を意識するようになったのは、育児休業から復帰してからで、育児にパタパタしなくても良くなった今でも、続けていこうと考えていることです。

Q7 業務を進める上で、相談できる職員はいらっしゃいますか。

直属の上司や同じ課の同僚と話したいことを話せる関係であることは、とてもありがたいことです。

それ以外にも、同じく子育て中の職員がいて、子どものことを相談し合ったり、夫と夜勤が重なった時に、勤務交替を気軽にお願いできたことは、本当にありがたかったと思います。

Q9 仕事のやりがいについて教えてください。

25年以上勤務してきて、改めて仕事のやりがいと聞かれると難しいですが、私にとって仕事は人生の一部です。2種類の仕事を長々と続けてこられているのは、人間が相手に常に変化があったからなのかなあとと思います。

男子少年院に異動してきて、今は一段と少年と直接接する機会は少なくなっていますが、組織はいろいろな人がいて成り立っていくもの。縁の下の力持ちとして、細々と仕事を続けていけたらと思います。

Q8 これまでのキャリアを振り返られて、いかがでしょうか。

その時その時で、一生懸命努めてはきましたが、ここまで仕事を続けてこられたのは、周りの人の支えがあったからだと思います。みなさんに感謝申し上げます。頭に思い浮かぶ方には退職された先輩も多く、その方々にお返しすることはできませんが、今後、少しでも後輩の支えになれたらと思います。

Q10 女性が仕事を続ける上で、何が大切だと思われるですか。

この職場には、対象者が男子少年だったり女子少年だったりする故に、男性職員でないとできないこと、女性職員でないとできないことはありますが、意外と女性職員だからと意識することは少ないです。

ですが、振り返ってみると私は、少し前まで常に走っていたような気がします。歩いても立ち止まってもいいですよ。頑張り過ぎないでと伝えたいです。

Q11 どのような職員にこの世界に入ってきてもらいたいですか。

この仕事をしてみたいと思われる方はどなたでも。